

Ⅲ. 中高年齢船員の労働力活用に関する調査研究

目 次

第1部 退職船員に対する調査	60
A 調査の概要	60
B あなた自身のことについて	61
C あなたの現在の状態について	62
D 非就労者の年金と生活について	66
E 就労者の労働と年金と生活について	67
F 今後の考えについて	68
G ま と め	73
第2部 現役船員に対する調査	75
A 調査の概要	75
B あなた自身のことについて	75
C あなたの雇われ方について	76
D 今後の内航船員としての見通し	77
E 年金受給年齢前後の考え方について	79
F ま と め	83
第3部 内航海運事業者に対する調査	85
A 調査の概要	85
B 事業者について	85
C 船員状況について	86
D 後継者や船員の補充について	89
E 中高年齢船員の活用について	92
F ま と め	96

はじめに

海上労働力不足の緩和及び船員の休暇取得促進並びに中高年齢船員の雇用の促進に資するため、中高年齢船員の意識を把握するとともに、併せてそれら船員を雇用する側の意識を調査し、今後の労働力活用対策の策定に必要な基礎的資料を得ることを目的とする。

第1部 退職船員に対する調査

A 調査の概要

1 調査の目的

調査目的の一環として、退職船員の就業、生活、老齢年金の受給状況、年金受給に関する意識、現在の労働意欲、就業意識（就業期間、就業先、収入）を調査することにある。

2 調査対象

現在、船員職業を廃業したとみられる元内航船員を調査対象にすべきである。しかし、それらの氏名、住所の捕捉は容易ではない。

そこで、全日本海員組合の協力を得て、その離職登録組合員名簿（登録期間は、原則として離職後3年）から、現在年齢55歳以上の離職登録組合員を抽出し、調査対象とした。その抽出数は、1,077人となった。

3 調査方法

調査票を上記対象者各自に郵送し、記入した調査票を、弊所まで返送させた。

4 回収状況と有効資料

回収された調査票は、634人であった。回収率は、58.9%である。回収に当っては、対象者各自に粗品を用意した。

B あなた自身のことについて

1 現在の居住地（表①）

居住地は、運輸局毎に区分している。構成比率では、九州が40.4%と高く、次いで四国が12.5%、そのほかの地域は比較的到低く、

分散している。

2 現在年齢（表①）

平均年齢は58.7歳である。構成比率では、57歳から60歳の間は14.4%から18.9%の間にほぼ均等に存在するが、その前後は低くなる。居住地別では、四国は57歳が24.1%とやや高い。

3 離職年齢（表②）

平均離職年齢は56.9歳である。離職年齢は、55歳が27.8%で最も多く、次いで58歳23.8%、

表1 年齢別 居住地別人数

表1	居住地												合計
	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	神戸	中国	四国	九州	沖縄	無回答	
年齢													
55歳	2	8	1	2	3		1	4	4	10			35
	5.7	22.9	2.9	5.7	8.6		2.9	11.4	11.4	28.8			100.0
56歳		6	3	3	4	3	2	11	6	24			62
		9.7	4.8	3.2	6.5	4.8	3.2	17.7	9.7	38.7	1		100.0
57歳	1	5	2	4	7	3	4	10	19	36	1.6		91
	1.1	5.5	2.2	4.4	7.7	3.3	4.4	11.0	20.9	39.6			100.0
58歳	3	7	5	3	9	5	2	9	15	55	5	2	120
	2.5	5.8	4.2	2.5	7.5	4.2	1.7	7.5	12.5	45.8	4.2	1.7	100.0
59歳	2	14	3	8	5	3	4	6	9	41	5		100
	2.0	14.0	3.0	8.0	5.0	3.0	4.0	6.0	9.0	41.0	5.0		100.0
60歳	3	6	1	6	9	5	5	5	11	51	5	1	108
	2.8	5.6	.9	5.6	8.3	4.6	4.6	4.6	10.2	47.2	4.6	.9	100.0
61～64歳	7	9	5	5	7	3	2	9	13	36	2	1	99
	7.1	9.1	5.1	5.1	7.1	3.0	2.0	9.1	13.1	36.4	2.0	1.0	100.0
65歳以上				1	2	1	1	1	2	3			13
				23.1	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4	23.1			100.0
無回答	1		1			1						3	6
	16.7		16.7			16.7						50.0	100.0
合計	19	55	21	33	45	25	21	55	79	256	18	7	634
	3.0	8.7	3.3	5.2	7.1	3.9	3.3	8.7	12.5	40.4	2.8	1.1	100.0

表2 居住地別 離職年齢別人数

表2	離職年齢（歳）								合計	
	54以下	55	56	57	58	59	60	61以上		無回答
居住地										
北海道		1	2	1	8	3	1		3	19
		5.3	10.5	5.3	42.1	15.8	5.3		15.8	100.0
東北	1	21	5	5	11	7		2	3	55
	1.8	38.2	9.1	9.1	20.0	12.7		3.6	5.5	100.0
新潟	1	8	2	2	3	4	1			21
	4.8	38.1	9.5	9.5	14.3	19.0	4.8			100.0
関東		8	2	3	8	7	1		3	33
		24.2	6.1	9.1	24.2	21.2	3.0	3.0	9.1	100.0
中部	1	12	8	7	6	5	2		4	45
	2.2	26.7	17.8	15.6	13.3	11.1	4.4		8.9	100.0
近畿		11	3	2	4		4			25
		44.0	12.0	8.0	16.0		16.0	4.0		100.0
神戸		8	1	4	1	3	1			21
		38.1	4.8	19.0	19.0	14.3	4.8			100.0
中国		22	1	9	4				11	55
		40.0	14.5	1.8	16.4	7.3			20.0	100.0
四国		22	11	7	15	9	3	2	10	79
		27.8	13.9	8.9	19.0	11.4	3.8	2.5	12.7	100.0
九州		62	40	25	67	33	4	4	21	256
		24.2	15.6	9.8	26.2	12.9	1.6	1.6	8.2	100.0
沖縄	1				16				1	18
	5.6				88.9				5.6	100.0
無回答		1	1	2			1		2	7
		14.3	14.3	28.6			14.3		28.6	100.0
合計	4	176	83	59	151	75	18	10	58	634
	.6	27.8	13.1	9.3	23.8	11.8	2.8	1.6	9.1	100.0

56歳13.1%、59歳11.8%、57歳9.3%、60歳2.8%、61歳以上1.6%となっている。

4 最終職種（表③）

甲板部員21.5%、機関長21.3%、船長20.7%とこの3つで、63.5%を占め、以下機関士8.5%、航海士8.4%、司厨部員7.4%、機関部員5.8%通信士1.1%、その他2.1%と続いている。

C あなたの現在の状態について

5 平成4年中の賃金、年金、その他の収入

① 年間総収入（表④、⑤）

平成4年中の賃金、年金、その他の収入について聞いたところ、その合計総収入の平均は、406.0万円となった。

② 年間賃金収入（表略）

年間賃金収入について回答している者は、全体の約半数で、平均427.6万円となった。

③ 年間年金収入（表略）

年間年金収入について回答している者は、全体の約7割であった。平均は、248.2万円となった。

6 家族構成（表⑥）

同居している家族構成は、夫婦2人が53.9%と多く、親・子・孫の誰かと21.0%、子・孫と17.0%、一人2.5%、その他4.9%となった。

7 健康状態（表⑥）

現在の健康状態については、十分健康53.9%と一応健康35.8%を合わせて約9割となっている。

8 就労の有無（表⑦）

現在、就労しているかどうかについては、働いていない62.0%、働いている34.4%、その他3.5%となっている。

居住地別では、中部の働いているが51.1%、四国の働いていないが70.9%といずれもやや

表3 居住地別 最終職種別人数

	最終職種									合計	
	船長	航海士	機関長	機関士	甲板部員	機関部員	通信士	司厨部員	その他		無回答
居住地											
北海道	5 26.3	1 5.3	5 26.3	2 10.5	2 10.5	2 10.5		1 5.3		1 5.3	19 100.0
東北	8 14.5	9 16.4	11 20.0	6 10.9	11 20.0	3 5.5		4 7.3	3 5.5		55 100.0
新潟	1 4.8	3 14.3	4 19.0	3 14.3	5 23.8	2 9.5		3 14.3			21 100.0
関東	10 30.3	1 3.0	6 18.2	3 9.1	8 24.2	2 6.1	1 3.0	1 3.0		1 3.0	33 100.0
中部	11 24.4	2 4.4	10 22.2	2 4.4	13 28.9	1 2.2		4 8.9	1 2.2	1 2.2	45 100.0
近畿	3 12.0	1 4.0	8 32.0	5 20.0	3 12.0	1 4.0		4 16.0			25 100.0
神戸	4 19.0	4 19.0	5 23.8	5 10.9	4 19.0	1 4.8		2 9.5	1 4.8		21 100.0
中国	11 20.0	5 9.1	10 18.2	6 10.9	8 14.5	1 1.8	1 1.8	4 7.3	3 5.5	6 10.9	55 100.0
四国	27 34.2	9 11.4	19 24.1	1 1.3	10 12.7	4 5.1	4 1.3	2 2.5	2 2.5	10.9 5.1	79 100.0
九州	48 18.8	18 7.0	51 19.9	22 8.6	66 25.8	18 7.0	3 1.2	21 8.2	3 1.2	6 2.3	256 100.0
沖縄	3 16.7		4 22.2	3 16.7	3 16.7	2 11.1	1 5.6	1 5.6		1 5.6	18 100.0
無回答			2 28.6	1 14.3	3 42.9					1 14.3	7 100.0
合計	131 20.7	53 8.4	135 21.3	54 8.5	136 21.5	37 5.8	7 1.1	47 7.4	13 2.1	21 3.3	634 100.0

多くなっている。年齢別では、数の少ない57 働いているようである。
 歳を例外として、ほぼ年齢に拘らず平均的に

表4 居住地 最終職種別 年間総収入額別人数

	年間総収入(万)								合計
	149以下	150~249	250~349	350~449	450~549	550~699	700以上	無回答	
居住地									
北海道			7	4	1	2	5		19
東北		8	36.8	21.1	5.3	10.5	26.3		100.0
新潟		14.5	14	4	11	9	7	2	55
関東		4	25.5	7.3	20.0	16.4	12.7	3.6	100.0
中部	2	19.0	6	3	1	3	3	1	21
近畿	4.4	2	10	7	4.8	14.3	14.3	4.8	100.0
神戸		6.1	30.3	21.2	3.0	21.2	6.1	12.1	100.0
中国		3	16	6	6	7	4	1	45
四国		6.7	35.6	13.3	13.3	15.6	8.9	2.2	100.0
九州		3	12	2	3	1	3	1	25
沖縄		12.0	48.0	8.0	12.0	4.0	12.0	4.0	100.0
無回答		1	7	2	4	2	5		21
		4.8	33.3	9.5	19.0	9.5	23.8		100.0
	1	10	18	8	4	7	5	2	55
	1.8	18.2	32.7	14.5	7.3	12.7	9.1	3.6	100.0
	1	10	27	11	5	10	11	4	79
	1.3	12.7	34.2	13.9	6.3	12.7	13.9	5.1	100.0
	3	29	75	39	26	29	34	21	256
	1.2	11.3	29.3	15.2	10.2	11.3	13.3	8.2	100.0
		4	1	6	3	2	1	1	18
		22.2	5.6	33.3	16.7	11.1	5.6	5.6	100.0
		1	1	1	1	1	1	1	7
		14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	100.0
最終職種									
船長		6	40	32	8	16	24	5	131
航海士		4.6	30.5	24.4	6.1	12.2	18.3	3.8	100.0
機関長	2	5	17	3	11	10	3	4	53
機関士	1.5	9.4	32.1	5.7	20.8	18.9	5.7	7.5	100.0
甲板部員	1	9	42	19	18	19	21	5	135
機関部員	1.9	6.7	31.1	14.1	13.3	14.1	15.6	3.7	100.0
通信士	2.7	1	16	5	6	5	10	5	54
司厨部員		11.1	29.6	9.3	11.1	9.3	18.5	9.3	100.0
その他		2	43	14	14	15	8	9	136
無回答	1	1.5	31.6	10.3	10.3	11.0	5.9	6.6	100.0
	4.8	3	12	2	2	4	6	7	37
		8.1	32.4	5.4	5.4	10.8	16.2	18.9	100.0
			2	2	1	1		1	7
			28.6	28.6	14.3	14.3		14.3	100.0
		10	14	10	3	4	5	1	47
		21.3	29.8	21.3	6.4	8.5	10.6	2.1	100.0
		4	2	4	1	1	1		13
		30.8	15.4	30.8	7.7	7.7	7.7		100.0
	1	1	6	2	2	5	3	1	21
	4.8	4.8	28.6	9.5	9.5	23.8	14.3	4.8	100.0
合計	7	75	194	93	66	80	81	38	634
	1.1	11.8	30.6	14.7	10.4	12.6	12.8	6.0	100.0

表5 居住地 職種 健康状態 就労の有無別
希望職種別 年間収入額の平均

	年間総収入（万）	
	平均	
居住地 北海道 東北 関東 中部 近畿 四国 九州 沖縄 無回答		494.1
		431.1
		403.0
		387.1
		408.5
		374.4
		489.7
		379.4
		413.6
		397.3
		392.1
	387.1	
職種 最終 船長 航海士 機関士 甲板 機関 通司 その他 無回答		459.2
		393.5
		446.8
		407.9
		344.2
		351.6
		354.3
		381.8
		367.6
		428.8
健康状態 十分健康 やや不健康 大分不健康 無回答		435.7
		385.6
		301.8
		340.4
		550.0
就労の有無 働いていない 働いている その他 無回答		403.4
		419.3
		339.0
合計		406.0
職種の別 内航船 航海士 陸上 その他 無回答		413.9
		397.3
		409.9
		497.0
		256.7
合計		402.2

表6 居住地 就労の有無別 家族構成 健康状態別人数

	家族構成						健康状態					合計
	夫婦二人	自分一人	子供孫と	親孫の誰か	その他	無回答	十分健康	一応健康	やや不健康	大分不健康	無回答	
居住地												
北海道	15		2	1	1		15	4				19
東北	78.9		10.5	5.3	5.3		78.9	21.1				100.0
新潟	33	3	9	8	2		31	21	2	1		55
関東	60.0	5.5	16.4	14.5	3.6		56.4	38.2	3.6	1.8		100.0
中部	5		10	6			11	8	1	1		21
近畿	23.8		47.6	28.6			52.4	38.1	4.8	4.8		100.0
神戸	16	1	8	6	2		20	11	1	1		33
中国	48.5	3.0	24.2	18.2	6.1		60.6	33.3	3.0	3.0		100.0
四国	12		14	15	4		23	17	4	1		45
九州	26.7		31.1	33.3	8.9		51.1	37.8	8.9	2.2		100.0
沖縄	13		7	4	1		14	9	2			25
無回答	52.0		28.0	16.0	4.0		56.0	36.0	8.0			100.0
	9	1	5	5		1	10	8		2	1	21
	42.9	4.8	23.8	23.8		4.8	47.6	38.1		9.5	4.8	100.0
	32		9	9	4		1	26	21	1		55
	58.2		16.4	16.4	7.3	1.8	47.3	38.2	10.9	1.8	1.8	100.0
	48	4	8	17	2		43	25	8	3		79
	60.8	5.1	10.1	21.5	2.5		54.4	31.6	10.1	3.8		100.0
	147	6	32	58	12	1	134	95	19	8		258
	57.4	2.3	12.5	22.7	4.7	.4	52.3	37.1	7.4	3.1		100.0
	7	1	4	1	2		10	6	1	1		18
	38.9	5.6	16.7	22.2	11.1	5.6	55.6	33.3	5.6	5.6		100.0
	5		1	1	1		5	2				7
	71.4		14.3	14.3			71.4	28.6				100.0
就労の有無												
働いていない	221	12	66	75	18	1	181	155	37	19	1	393
働いている	58.2	3.1	16.8	19.1	4.6	.3	46.1	39.4	9.4	4.8	.3	100.0
その他	108	4	37	54	12	3	151	61	5		1	218
無回答	49.5	1.8	17.0	24.8	5.5	1.4	69.3	28.0	2.3		.5	100.0
	12		5	4	1		10	2				22
	54.5		22.7	18.2	4.5		45.5	45.5	9.1			100.0
	1						1	1				1
	100.0						100.0					100.0
合計	342	16	108	133	31	4	342	227	44	19	2	634
	53.9	2.5	17.0	21.0	4.9	.6	53.9	35.8	6.9	3.0	.3	100.0

表7 居住地 就労の有無別 希望職種別人数

	就労の有無				合計	仕事の種類					合計
	働いていない	働いている	その他	無回答		内航船員	船舶海運	陸の仕事	その他	無回答	
居住地											
北海道	14	5			19	8	1	4			13
東北	73.7	26.3			100.0	61.5	7.7	30.8			100.0
新潟	34	20	1		55	15	7	20	1	2	45
関東	61.8	36.4	1.8		100.0	33.3	15.6	44.4	2.2	4.4	100.0
中部	12	3	6		21	9	1	9			19
近畿	57.1	14.3	28.6		100.0	47.4	5.3	47.4			100.0
神戸	22	11			33	7	2	11			20
中国	66.7	33.3			100.0	35.0	10.0	55.0			100.0
四国	22	23			45	7	4	8		1	20
九州	48.9	51.1	1		100.0	35.0	20.0	40.0		5.0	100.0
沖縄	16	8	1		25	12	3	4	1		20
無回答	64.0	32.0	4.0		100.0	60.0	15.0	20.0	5.0		100.0
	11	9	1		21	6	1	5		1	13
	52.4	42.9	4.8		100.0	46.2	7.7	38.5		7.7	100.0
	33	21	1		55	19	3	6		4	32
	60.0	38.2	1.8		100.0	59.4	9.4	18.8		12.5	100.0
	56	20	3		79	34	4	18		2	58
	70.9	25.3	3.8		100.0	58.6	6.9	31.0		3.4	100.0
	159	87	9	1	256	66	16	71	4	15	172
	62.1	34.0	3.5	.4	100.0	38.4	9.3	41.3	2.3	8.7	100.0
	11	7			18	2	4	7		1	14
	61.1	38.9			100.0	14.3	28.6	50.0		7.1	100.0
	3	4			7	2	1	1			4
	42.9	57.1			100.0	50.0	25.0	25.0			100.0
合計	393	218	22	1	634	187	47	164	6	26	430
	62.0	34.4	3.5	.2	100.0	43.5	10.9	38.1	1.4	6.0	100.0

D 非就労者の年金と生活について

9 年金受給の有無(表⑧ 非就労者のみ)

非就労者は393人である。その内96.2%が年金を受給している。年齢別では、55歳の受給していないが19.2%とやや多く、61-64歳は全員が受給している。居住地別では、東北の受給していないが11.8%とやや多い。

10 収入と生活の関係2

(表⑨ 非就労年金受給者のみ)

働かないで、年金を受給している者の収入と生活の関係は、年金だけで苦しい63.0%、年金だけで困らない23.5%、他に収入あり困らぬ9.0%、その他2.4%となっている。

表8 居住地 年齢別 非就労者の年金受給の有無別人数

	非就労者の年金受給の有無			合計
	受給していない	受給している	無回答	
居住地				
北海道		14		14
		100.0		100.0
東北	4	30		34
	11.8	88.2		100.0
新潟	1	10	1	12
	8.3	83.3	8.3	100.0
関東	2	20		22
	9.1	90.9		100.0
中部		22		22
		100.0		100.0
近畿		16		16
		100.0		100.0
神戸		11		11
		100.0		100.0
中国		32	1	33
		97.0	3.0	100.0
四国	1	55		56
	1.8	98.2		100.0
九州	2	155	2	159
	1.3	97.5	1.3	100.0
沖縄	1	10		11
	9.1	90.9		100.0
無回答		3		3
		100.0		100.0
年齢				
55歳	5	21		26
	19.2	80.8		100.0
56歳	1	38	2	41
	2.4	92.7	4.9	100.0
57歳	1	50		51
	2.0	98.0		100.0
58歳	1	74		75
	1.3	98.7		100.0
59歳	2	61		63
	3.2	96.8		100.0
60歳	1	64	1	66
	1.5	97.0	1.5	100.0
61~64歳		59		59
		100.0		100.0
65歳以上		7	1	8
		87.5	12.5	100.0
無回答		4		4
		100.0		100.0
合計	11	378	4	393
	2.8	96.2	1.0	100.0

表9 居住地 非就労受給者の収入・生活関係別人数

	年金受給非就労者の収入と生活					合計
	年金だけで困らぬ	年金だけで苦しい	他に収入あり困らぬ	その他	無回答	
居住地						
北海道	5	6	2	1		14
	35.7	42.9	14.3	7.1		100.0
東北	2	23	2	1	2	30
	6.7	76.7	6.7	3.3	6.7	100.0
新潟		5	4	1		10
		50.0	40.0	10.0		100.0
関東	4	13	1	1	1	20
	20.0	65.0	5.0	5.0	5.0	100.0
中部	8	11	2	1		22
	36.4	50.0	9.1	4.5		100.0
近畿	5	11				16
	31.3	68.8				100.0
神戸	2	8		1		11
	18.2	72.7		9.1		100.0
中国	9	20	2	1		32
	28.1	62.5	6.3	3.1		100.0
四国	13	36	6			55
	23.6	65.5	10.9			100.0
九州	41	95	13	2	4	155
	26.5	61.3	8.4	1.3	2.6	100.0
沖縄		8	1		1	10
		80.0	10.0		10.0	100.0
無回答		2	1			3
		66.7	33.3			100.0
合計	89	238	34	9	8	378
	23.5	63.0	9.0	2.4	2.1	100.0

E 就労者の労働と年金と生活について

11 就労者の就労形態 (表⑩ 就労者のみ)

現在働いている218人の就労形態は、陸で臨時雇が42.2%と多く、常雇船員17.0%、臨時雇船員14.2%、陸で常雇12.8%、その他8.7%となっている。

12 船員継続者の乗船船種

(表⑩ 船員継続者のみ)

常雇船員或いは臨時雇船員としての船員継続者は68人いる。その内54人が内航船で、その他6人、港内船、漁船共に4人となっている。

13 年金受給の有無 (表⑩ 就労者のみ)

就労者の72.9%が、年金を受給している。受給していない者は、22.9%となっている。

内航船再就労希望者は、受給していないが34.6%とやや多い。

14 受給年金の種類

(表略 就労年金受給者のみ)

159人の働きながら年金を受給している者の年金種類は、老齢厚生年金と老齢基礎年金40.3%、在職中特別支給の老齢厚生年金25.8%、特別支給の老齢厚生年金25.2%、その他

3.8%となっている。

15 年金不受給の理由

(表略 就労年金不受給者のみ)

50人の働きながら年金を受給していない者の受給していない理由は、年金より賃金が多い46.0%、年金だけでは苦しい32.0%がやや多く、年金額を引き上げたい10.0%、年金の停止、減額がいや6.0%となっている。

16 収入と生活の関係 4

(表⑪ 就労年金受給者のみ)

働きながら年金を受給している159人の収入と生活の関係では、年金以外に、安定しない賃金で生活している、安定しない賃金は小遣い程度であるが共に37.1%、安定した賃金で生活している17.0%となっている。

表10 居住地別 就労者の就労形態 乗船船種 年金受給状況別人数

居住地	就労者の就労形態						船員継続者の乗船船種						就労者の年金受給の有無				合計
	陸で常雇	陸で臨時雇	常雇船員	臨時雇船員	その他	無回答	内航船	フェリー	港内船	漁船	その他	該当なし	受給していない	受給している	無回答		
北海道	1	1	1			2	1	1					2	3		5	
東北	20.0	20.0	20.0			40.0	20.0	20.0				3	40.0	60.0		100.0	
関東	1	14	2									15	2	13		20	
中部	5.0	70.0	10.0	10.0	5.0		20.0					5.0	10.0	90.0		100.0	
近畿		3												3		3	
四国		100.0												100.0		100.0	
九州	2	4	1	1	1	1	1	1					2	100.0		100.0	
沖縄	18.2	45.5	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	1					18.2	72.7	9.1	100.0	
無回答	6	9	2	2	2	2	1					1	1	21		23	
	26.1	39.1	8.7	8.7	8.7	8.7	4.3					4.3	4.3	91.3	4.3	100.0	
	1	3						4.3	4.3					8		8	
	12.5	37.5		37.5	12.5		12.5							75.0	25.0	100.0	
	2	4		1	1		1							5		9	
	22.2	44.4	4	22.2	11.1		11.1							55.6		100.0	
	9.5	38.1	19.0	23.8	9.5		23.8							15		21	
	2	5	6	4	2	1	10							12	1	20	
	10.0	25.0	30.0	20.0	10.0	5.0	50.0							60.0	5.0	100.0	
	1	32	19	11	3	5	27							59	4	87	
	12.6	36.8	21.8	12.6	10.3	5.7	31.0							67.8	4.6	100.0	
		6	1				1							6		7	
		85.7	14.3		1		14.3							85.7		100.0	
		2	2				2							3		4	
		50.0	25.0	25.0			50.0							75.0		100.0	

表11 居住地別 就労受給者の収入・生活関係別人数

	年金受給就労者の収入と生活							合計
	安定賃 金と り	安定賃 金で 生活	不安 定賃 生活	不安 定賃 小	不安 定賃 は い	賃 金と 別 途 入	その他	
居住地								
北海道		2			1			3
東北		66.7		9	33.3			100.0
新潟		1	5.6	50.0	38.9		1	100.0
関東		2		1	1	1		3
中部	12.5	25.0	25.0	8	37.5	33.3		100.0
近畿	1	5	8	2	7			21
神戸	4.8	23.8	38.1	2	33.3			100.0
中国		2	2	2	2			6
四国		33.3	33.3	3	33.3			100.0
九州		1	5	8	3		1	5
沖縄		6.7	33.3	5	53.3	6.7	20.0	100.0
無回答		3	5	2	2			12
	8.3	25.0	41.7	19	16.7		8.3	100.0
		10	19	25	25	2	2	59
		16.9	32.2	42.4	3.4		1.7	100.0
		1	5					6
		16.7	83.3	2				100.0
			2				1	3
			66.7				33.3	100.0

F 今後の考えについて

17 非就労者の労働意欲

(表⑫ 非就労者のみ)

現在働いていない者に対する、条件が合えば、また働くかの質問に対しては、56.0%が働きたいと答え、どちらとも言えない29.3%、働きたくない12.5%となっている。

18 就労者の労働意欲 (表⑬ 就労者のみ)

現在働いている者に対する、働き続けるかの質問に対しては、働き続けるが60.6%と多く、何とも言えない24.3%、近い内にやめる11.9%となっている。

働き続ける比率が高いのは、年齢別では61-64歳の71.4%、居住地別では中部の78.3%が目だつ。内航船再就労希望者は、何とも言えないが73.1%、その内「人材センター」登録希望者は60.0%となっている。

19 就労希望者の理由

(表⑭ 働きたい・働き続ける者のみ)

363人の就労希望者の働く理由は、健康なので遊んでいたくないが47.9%と多く、生活のため32.2%、能力を生かしたい13.8%、年金受給年齢まで3.6%と続いている。

20 再就労希望者の希望職種

(表⑮ 働きたい非就労者と判断不明者のみ)

現在働いておらず、働く意欲がある或いはどちらとも言えないと答えた者と、現在働いていて今後はどちらとも言えないと答えた者の合計は430人であった。その内43.5%が内航船員を望み、陸の仕事38.1%、船舶・海運関連10.9%となっている。内航船の希望が多いのは、年齢別では比較的高齢者、居住地別では近畿60.0%、四国58.6%などである。

表12 居住地 労働意欲別人数

居住地	非就労者の労働意欲				合計	就労者の労働意欲					合計
	働きたくない	働きた	何とも 言えぬ	無回答		働き続ける	近い にやる	内 め	何とも 言えぬ	無回答	
北海道	2	11	1		14	3		1	1	5	
	14.3	78.6	7.1		100.0	60.0		20.0	20.0	100.0	
東北		24	10		34	11	1	7	1	20	
		70.6	29.4		100.0	55.0	5.0	35.0	5.0	100.0	
新潟		7	4	1	12	2		1		3	
		58.3	33.3	8.3	100.0	66.7		33.3		100.0	
関東	6	8	8		22	8		3		11	
	27.3	36.4	36.4		100.0	72.7		27.3		100.0	
中部	5	12	4	1	22	18	3	2		23	
	22.7	54.5	18.2	4.5	100.0	78.3	13.0	8.7		100.0	
近畿		13	3		16	3	2	2	1	8	
		81.3	18.8		100.0	37.5	25.0	25.0	12.5	100.0	
神戸		6	5		11	7	1	1		9	
		54.5	45.5		100.0	77.8	11.1	11.1		100.0	
中国	6	16	9	2	33	9	6	4	2	21	
	18.2	48.5	27.3	6.1	100.0	42.9	28.6	19.0	9.5	100.0	
四国	10	29	16	1	56	6	5	8	1	20	
	17.9	51.8	28.6	1.8	100.0	30.0	25.0	40.0	5.0	100.0	
九州	20	84	51	4	159	56	8	22	1	87	
	12.6	52.8	32.1	2.5	100.0	64.4	9.2	25.3	1.1	100.0	
沖縄		8	3		11	6		1		7	
		72.7	27.3		100.0	85.7		14.3		100.0	
無回答		2	1		3	3		1		4	
		66.7	33.3		100.0	75.0		25.0		100.0	

表13 居住地別 働く理由別人数

居住地	働く理由						合計
	生活のため	年金受給 年齢まで	健康で働きた い	能力を生かす	その他	無回答	
北海道	7	1	4	2		1	15
	46.7	6.7	26.7	13.3		6.7	100.0
東北	14	1	17	3		1	36
	38.9	2.8	47.2	8.3		2.8	100.0
新潟	3		6	1			10
	30.0		60.0	10.0			100.0
関東	3	1	10	2			16
	18.8	6.3	62.5	12.5			100.0
中部	12	1	11	7			31
	38.7	3.2	35.5	22.6			100.0
近畿	5		9	2			16
	31.3		56.3	12.5			100.0
神戸	1		10	1			14
	7.1		71.4	7.1	7.1	7.1	100.0
中国	12		11	4			27
	44.4		40.7	14.8			100.0
四国	12	1	21	1	2		37
	32.4	2.7	56.8	2.7	5.4		100.0
九州	40	7	68	24	1	2	142
	28.2	4.9	47.9	16.9	.7	1.4	100.0
沖縄	5	1	5	3			14
	35.7	7.1	35.7	21.4			100.0
無回答	3		2				5
	60.0		40.0				100.0
合計	117	13	174	50	4	5	363
	32.2	3.6	47.9	13.8	1.1	1.4	100.0

21 希望する航路

(表略 内航船員希望者のみ)

187人の内航船再就労希望者の希望航路は、居住地周辺38.0%、こだわらない33.2%、馴染みのある21.9%となっている。

22 希望する船種

(表⑭ 内航船員希望者のみ)

希望船種は、貨物船が54.5%と多く、タンカーと合わせてほぼ9割になっている。

23 老齢年金と就労の関係

(表⑮ 内航船員希望者のみ)

老齢厚生年金との関係での働き方では、受給しながらが62.6%と多く、受給せずには34.2%となっている。年齢別では、年齢が高くなるほど、受給しながらが多くなる傾向がみられる。

24 希望する雇用形態

(表⑯ 内航船員希望者のみ)

希望する雇われ方では、期間を定めてが56.7%と高く、こだわらない21.4%、期間は問わない16.6%となっている。

25 年間希望乗船回数、日数

(表⑰、⑱ 内航船員希望者のみ)

1年間に希望する乗船回数は、平均2.9回となっている。かなりのばらつきがあり、居住地別では幾分西に多く、東に少い傾向がみられる。乗船日数では、平均152.3日となっている。49日以下から250日以上の間にはばらついており、50-99日に一つの山、250日以上が小さな山となっている。年齢別では、年齢が高くなるにつれて、平均日数が少くなる傾向が、幾分みられる。

26 希望月額賃金

(表⑲、⑳ 内航船員希望者のみ)

希望する月額賃金は、平均44.5万円となっている。30万円から60万円以上に分散している。居住地別では、四国の50-59万円に山がみられる。職種別では、船長はやや高く、部員はやや低くなっている。

27 人材センターへの登録希望

(表㉑ 内航船員希望者)

人材センターへの登録希望別では、登録し

表14 居住地別 船種別人数

	内航希望者の希望船種						合計
	貨物船	タンカー	砂砂利	ケミカル	その他	無回答	
居住地							
北海道	5	3					8
	62.5	37.5					100.0
東北	9	2	1	1	1	1	15
	60.0	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	100.0
新潟	5	3		1			9
	55.6	33.3		11.1			100.0
関東	2	4			1		7
	28.6	57.1			14.3		100.0
中部	4	3					7
	57.1	42.9					100.0
近畿	4	7			1		12
	33.3	58.3			8.3		100.0
神戸	6						6
	100.0						100.0
中国	13	5	1				19
	68.4	26.3	5.3				100.0
四国	18	12	1	1		2	34
	52.9	35.3	2.9	2.9		5.9	100.0
九州	34	23	1	1	5		66
	51.5	34.8	1.5	1.5	7.6	3.0	100.0
沖縄	1					1	2
	50.0					50.0	100.0
無回答	1	1					2
	50.0	50.0					100.0

表17 居住地別 希望月額賃金別人数

	希望月額賃金 万円									合計
	24以下	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～59	60以上	無回答	
居住地										
北海道			1	2	1	2	1		1	8
			12.5	25.0	12.5	25.0	12.5		12.5	100.0
東北			2		2	3		2	3	15
			13.3		13.3	20.0	20.0	13.3	20.0	100.0
新潟			2	1	4	1		1		9
			22.2	11.1	44.4	11.1		11.1		100.0
関東			2	1	1	1	1	1		7
			28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3		100.0
中部				1	1	1	1	3		7
				14.3	14.3	14.3	14.3	42.9		100.0
近畿					4	2	1	3	2	12
					33.3	16.7	8.3	25.0	16.7	100.0
神戸				1	3			2		6
				16.7	50.0			33.3		100.0
中国	2		2	1	5		5	2	1	19
	10.5		10.5	5.3	26.3	5.3	26.3	10.5	5.3	100.0
四国	1		1	1	7	5	9	6	4	34
	2.9		2.9	2.9	20.6	14.7	26.5	17.6	11.8	100.0
九州	1	1	10	8	10	10	10	9	7	66
	1.5	1.5	15.2	12.1	15.2	15.2	15.2	13.6	10.6	100.0
沖縄					1		1			2
					50.0		50.0			100.0
無回答							1	1		2
							50.0	50.0		100.0
合計	4	1	20	16	39	26	33	30	18	187
	2.1	.5	10.7	8.6	20.9	13.9	17.6	16.0	9.6	100.0

表18 居住地 最終職種 年間乗船希望回数 日数及び希望月額賃金の平均

表18	年間希望乗船平均回数	年間希望乗船平均日数	希望月額平均賃金 万円
居住地			
北海道	1.8	191.9	40.3
東北	2.7	143.2	45.8
新潟	2.7	161.4	40.6
関東	2.2	235.0	41.4
中部	4.8	152.2	50.0
近畿	3.0	119.1	49.2
神戸	2.4	156.7	45.8
中国	3.1	168.6	42.2
四国	3.2	157.7	46.7
九州	2.9	139.4	43.3
沖縄	3.0	90.0	45.0
無回答	2.0	110.0	60.0
最終職種			
船長	2.9	125.1	51.3
航海士	2.7	205.5	45.6
機関長	3.3	140.3	47.3
機関士	2.7	138.1	43.0
甲板部員	3.1	152.9	38.4
機関部員	2.0	205.0	39.4
通信士	2.0	235.0	40.0
司厨部員	2.5	174.4	41.0
その他	1.3	201.7	41.7
無回答	2.0	167.5	37.5
合計	2.9	152.3	44.5

G ま と め

調査目的に則して、退職船員の雇用の促進とその機構としての人材活用センターを念頭におきながら、若干のまとめを行なう。

1 退職船員の属性の特徴

55歳以上で一度退職した船員の属性について、どのような特徴があるか。一応以下の通りである。

- ① 居住地は、九州が約4割を占め、西日本に集中的である。
- ② 離職年齢は、老齢厚生年金の受給年齢と関係がある55歳と58歳が多い。
- ③ 船員になったのは昭和20年代、特にその後半が多い。
- ④ 最終学校は、概ね中学校である。
- ⑤ 職員が多く、部員は甲板部員が多い。
- ⑥ 内航船員になる前の職業は、漁船員が多い。
- ⑦ 年間総収入は約406万円、月間換算収入33.8万円、年間年金総額は約248万円、月間換算年金額は20.6万円である。
- ⑧ 生活は、夫婦二人で、大体健康で、内航船員だった事に一応満足しながら、厳しい中で慎ましく暮らしている。
- ⑨ 現在、働いていなくて働きたい者及び働いている者は、全体の約7割になる。

2 非就労退職船員の特徴

現在働いていない非就労退職船員は、全退職船員の約62%に相当する393人いるが、どのような特徴があるか。一応以下の通りである。

- ① 基本属性による特徴は、殆ど見られない。
- ② 年間総収入は403.4万円、月間換算収入

33.6万円、年間年金総額は約248万円、月間換算年金額は20.6万円、いずれも全退職船員の平均との間に大きな差はみられない。

- ③ 健康状態は、就労者と比較すると、やや損なっている。
- ④ 96.2%が年金を受給しており、その61.9%は老齢厚生年金と老齢基礎年金である。
- ⑤ 年金受給者にとっては、その収入は、年金だけが86.5%であり、その約73%が生活の苦しさを訴えている。
- ⑥ 約56%が、働きたい意欲を示しており、健康なのでぶらぶらしていたくないことを一番の理由に挙げている。

3 就労退職船員の特徴

現在働いている就労退職船員は、全退職船員の34.4%に相当する218人いるが、どのような特徴があるか。一応以下の通りである。

- ① 基本属性による特徴は、殆ど見られない。
- ② 年間総収入は419.3万円、月間換算収入34.9万円、年間年金総額は約245万円、月間換算年金額は20.4万円、総収入は全退職船員の平均を僅かに上回るが、いずれも大きな差はみられない。
- ③ 健康状態は、非就労者と比較すると、かなり健康であると意識している。
- ④ 陸上で臨時雇で働いている割合が高く、船員継続者68人の殆どは内航船である。
- ⑤ 約73%が年金を受給しており、年金の種類は老齢厚生年金と老齢基礎年金の比率が高いが、その他の年金種類もある。
- ⑥ 年金受給者の年金以外の収入は、賃金は安定的でない者が多く、生活はあまり楽とも思われない。

⑦ 60.6%が、働き続ける意欲を示しており、その理由としては生活のため、により比重がかかっている。

4 内航船員として再就労希望者の特徴

非就労者で働きたい意欲を持つ者及び就労者も含めて意志を決めかねている者は、全退職船員の29.5%に相当する合計187人であるが、それらにはどのような特徴があるか。一応以下の通りである。

- ① 居住地、年齢などの基本属性に際だった特徴は、あまり見られない。僅かに居住地別では四国、内航入職年度では昭和56年以降、職種では船長が平均よりやや高い程度である。
- ② 年間総収入は413.9万円、月間換算収入34.5万円、年間年金総額は251.7万円、月間換算年金額は21.0万円で、総収入、年金ともに全退職船員の平均を僅かに上回る程度である。
- ③ 十分健康とする者が60.4%と、かなり自信ありげである。
- ④ 生活には、予想以上の厳しさを感じている。
- ⑤ 就労者の中には年金を受給していない者もいるが、概ね老齢厚生年金と老齢基礎年金か特別支給の厚生年金を受給している。
- ⑥ 現在働いている者は、常雇、臨時雇の船員としてが多く、その殆どが内航船である。
- ⑦ 働いていない者の再就労意欲はかなり強く、その理由は、健康なので遊んでいたくないか、生活のためで、再就労機会を窺う失業状態ともみられる。
- ⑧ 希望する航路は、居住地の近くか、馴染みのある航路で、船種は貨物船とタンカー、

多数は知人との同乗を望んでいる。

- ⑨ 雇われ方は期間を定めて、年金との関係では、受給しながら働きたいとしている。
- ⑩ 年間希望乗船回数は約3回、乗船日数は約152日で、希望月額賃金は約44.5万円である。
- ⑪ 人材活用センターへの登録希望者は、99人でどちらとも決めかねている者と合わせると169人である。

なお登録希望者は、現在働いていて、今後働き続けるとする者132人の内からも予想されるので、この調査の範囲では200人以上になるものと想像される。

5 若干の結語

最後に、退職船員が再び内航船員として、就労する場合のプロフィールを探ってみる。健康で充実感を得られ、賃金で慎ましい生活を助け、小遣いも欲しい。年金は受給しながらが望ましいが、減額や停止は困る。なるべく近くの慣れた航路の貨物船ないしタンカーに、期間を決めて、年間に150日程度なら乗りたい。月額賃金は、現役船員と同程度を期待している。